

“ウイルスとワクチンの戦い” ～イギリスにおけるロックダウンと
COVID-19 ワクチン接種の進捗による感染抑制状況～ 2021年3月10日

関屋 宏彦*

2021年2月の海外短信 Vol.7 “ウイルスとワクチンの戦い”の拙稿で、イギリスにおける COVID-19 ワクチン配布計画の概要を接種体験を交えてご紹介した。今回のレポートは、その続編である。

イギリス政府は、2月22日、イングランドで実施中のロックダウンについて、“4段階の緩和ロードマップ”を発表し、3月8日から学校の対面授業再開など第1ステップに入り、6月下旬の第4ステップで経済・社会活動の正常化を目指す計画である。ジョンソン首相は、昨年3月と11月、2度にわたりロックダウンを実施したが、その都度、解除後に再び感染拡大を招いて後戻りした失敗に鑑み、今般の第3次ロックダウン(1月5日開始)の緩和ロードマップ発表にあたり、“One-way road for freedom”(解放への一方通行)との表現で不退転の決意を表明した。それを裏付けるように、次のステップへの移行は、4つの厳格な条件～①順調なワクチン普及、②死者・入院患者の抑制、③医療機関への負担抑制、④変異種の抑制～を満たすことを前提条件としている。

それだけに、イギリス政府のワクチン効果に賭ける意気込みは強く、政府は緩和ロードマップ発表にあたり、採用した2種類のワクチンについて、それまでにワクチンを接種した人々の情報をもとに、その有効性の分析を専門家に依頼し、その調査結果をもとに判断を行った。ワクチンの効果について、疫学的・医学的に科学的に立証されるには、ワクチン接種が多数の国々で広く普及してからになると思われるが、2月22日段階でイングランド保健省が明らかにした暫定的分析結果の概要は次の通りである(<http://www.gov.uk/coronavirus-taxon/vaccinations>)。

その前に、イギリスにおける COVID-19 の感染の推移を確認しておく、ロックダウンに入った1月初旬のピーク時に、新規感染者数70千人/日、死者数1,600人/日を記録したが、3月第1週には、新規感染者数6～7千人/日、死者数200人/日で、それぞれ、ピーク比、十分の一および八分の一となり、大幅な改善を見せている。

ワクチン接種については、3月7日現在、初回の接種者22.4百万人、2回接種者1.1百万人と、成人人口53百万人の40%以上に普及した。最も優先順位の高い70歳以上の高齢者等(第1～第4順位まで)のグループ15百万人の接種は2月15日に目標通り達成した。今後の普及計画によると、第5～第9順位の50歳以上の成人等の接種は4月15日まで、その他の18歳以上の成人は6月末までを普及目標としている。

今次の専門家によるワクチンの有効性に係る調査は、現在接種を行っている Pfizer(接種開始2020年12月8日)および AstraZeneca(同2021年1月4日)の2種類のワクチンについて、12月8日から2月19日の間、70歳以上の高齢者を対象に実施した。

- 70代以上の人々(1月以降対象)について、初回の接種から4週間後の感染抑制効果は、Pfizerで57～61%、AstraZenecaで60～73%有効。
- 80代以上の人々について、2種類のワクチンともに、重症化抑制効果は、1回のみ接種でも、従来型の COVID-19 ウイルスのみならず、現在ドミナントになっているイギリス型変異種(B.1.1.7)に対しても、80%以上有効。

* 在ロンドン、公益財団法人都市化研究公室 監事

2021年1月下旬、ドイツの研究者より、AstraZeneca ワクチンは、65歳以上の高齢者に対する有効性が低いとの指摘があったが、この調査結果は反証する形となっている。

第1回のワクチンの効果が最も高まるのは28-34日で、その後も効果は持続する。これが正しければ、政府が採用した“可及的速やかに多数の人々に1回目の接種を行き渡らせて感染の抑制を図るため、2回目の接種との間隔をあげ、12週間以内とする方針”が正当化されることになる（メーカーが推奨するのは4週間以内）。

- 80代以上の人々の死亡リスク抑制効果は、Pfizerで83%有効であった(AstraZenecaは、接種開始が遅れたため、調査中)。

以上は暫定的分析結果ではあるが、イギリスで接種が進む2種類のワクチンの普及が、コロナ感染・症状悪化・死亡のリスクを劇的に抑制する有望なデータを提供するものである。

しかし、イングランドの主任医務官のウィット教授は、「感染抑制効果は100%ではなく、ワクチンを接種しても、感染するリスクは排除できず、感染後無症状の場合もあるため、他人に感染させるリスクは残る。また、ワクチンへの耐性のある新たな変異種が今後も登場することも想定し、ロックダウン緩和後も、引き続き政府による感染防止対策を徹底するよう」警告している。

また、1月半ばにイギリスでも感染が確認されたブラジル型変異種に対しては、AstraZenecaの有効性は低いとの指摘があるが、各種のワクチンの有効性について、十分なデータを基にした評価が固まっておらず、今後とも注視する必要がある。

この他、各種のワクチンの副作用の発生状況、普及過程におけるワクチンの有効性と限界に係るが科学的分析、ワクチンの先進国間の争奪・低開発国への配分、ワクチン耐性のある新変異種の発生と封じ込め対策および新製品の開発、等々、今後ともワクチンを巡る注目すべき課題は多いが、

“One-way road for freedom”の出口に見え始めた灯りを根気よく注目したい。

冒頭に述べたジョンソン首相が2/22に発表した「ロックダウン緩和の4段階のロードマップ」の詳細と問題点は、4項目の解除条件等の今後の推移を見ながら、後日、ご報告したい。その概略は；

3月8日に第1ステップ（学校の対面授業再開等）、4月12日に第2ステップ（デパートなどの小売店再開等）、5月17日に第3ステップ（飲食店の屋内営業・ホテルの再開、客数を制限しイベント再開等）、そして6月21日に第4ステップ（全ての営業施設の再開等）でロックダウンを解除する計画。

(以上)